

広報ひこね

11/1



快晴のもと、「エコロジカルアート」が行われた石寺浜（石寺町）



演技を終えた芝さんと友人の藤田清香さん（石寺浜で）

表紙では、「住みたい 住み続けたいまち」彦根の表情を写真で紹介しています。写真をお持ちでない場合は、**困情報政策課**広報係で撮影します。☎22-1411（内線431）へ気軽に連絡してください。

今年のテーマは「風」。目に見えない空気の動きを、325個のペトボトルの風車が表しました。汚れた大気は風となって世界中に広がります。このアートを、世界中の人たちと環境について考えるきっかけにしたいと思っています。

自然との一体感を感じました。

今年10月17日、石寺浜で環境のための芸術「エコロジカルアート in びわ湖04」が行われました。

エコロジカルアートは、10年前石寺浜で始まりました。その後鳥取県、オーストラリア、スイスで行われた後、原点の地に帰ってきました。私たち京都女子大学の学生30人と安曇川中学校の生徒30人が胸まで砂浜に埋まり、身振りで環境保護を訴えました。砂の重さ、冷たさを感じ、目の前に広がるびわ湖を見て、自然との一体感を感じました。

表紙のことば

芝 咲見さん（奈良市）

10月17日、石寺浜で環境のための芸術「エコロジカルアート in びわ湖04」が行われました。

エコロジカルアートは、10年前

石寺浜で始まりました。その後鳥

取県、オーストラリア、スイスで行

われた後、原点の地に帰ってきました。

私たち京都女子大学の学生30人

と安曇川中学校の生徒30人が胸まで

砂浜に埋まり、身振りで環境保護を

訴えました。砂の重さ、冷たさを感じ、

目の前に広がるびわ湖を見て、

自然との一体感を感じました。

今年10月17日、石寺浜で環境のための

芸術「エコロジカルアート in びわ湖04」

が行われました。

エコロジカルアートは、10年前

石寺浜で始まりました。その後鳥

取県、オーストラリア、スイスで行

われた後、原点の地に帰ってきました。

私たち京都女子大学の学生30人

と安曇川中学校の生徒30人が胸まで

砂浜に埋まり、身振りで環境保護を

訴えました。砂の重さ、冷たさを感じ、

目の前に広がるびわ湖を見て、

自然との一体感を感じました。

今年10月17日、石寺浜で環境のための

芸術「エコロジカルアート in びわ湖04」

が行われました。

エコロジカルアートは、10年前

石寺浜で始まりました。その後鳥

取県、オーストラリア、スイスで行